

令和元年6月20日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03440

研究課題名(和文) 社会福祉士のスーパーバイザー養成プログラムの開発と評価

研究課題名(英文) Development of training programs for social work supervisors

研究代表者

岡田 まり (Okada, Mari)

立命館大学・産業社会学部・教授

研究者番号：40309076

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、先行研究の知見および研究者・社会福祉士の意見に基づいてプログラム案を作成し、それを社会福祉士対象に実施して評価と修正を重ねることを通じて、社会福祉士のスーパーバイザー養成プログラムを開発した。プログラムは2部構成で、一つはスーパーバイザーに求められる知識・技能を習得する研修で、もう一つは既にスーパービジョンを実施している参加者を対象に、実施したスーパービジョンについて、ベテランのスーパーバイザーからスーパービジョンを受けるプログラムである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会福祉士が高い専門性をもって良質のサービスを提供するためには、スーパービジョン(管理・教育・支持)が必要である。しかし、わが国の多くの福祉現場では、スーパービジョンが普及しておらず、スーパービジョンを行うスーパーバイザーも不足している。本研究はスーパービジョンについての概念や方法を明らかにするとともに、スーパーバイザーを養成するプログラムを開発することで、スーパービジョンの普及に役立つ。スーパービジョンが普及すれば、福祉サービスの質の向上と福祉人材の育成・確保につながる事が期待できる。

研究成果の概要(英文)：In this study, we developed a program to train supervisors of social work, based on the results of previous research and repeated implementation and evaluation of the program with participants of social workers. The program consisted of two parts. One was a basic training to acquire the knowledge and skills required for supervision. The other was the supervision of supervision which participants had already carried out, to support them and improve their ability as supervisors.

研究分野：社会福祉

キーワード：スーパーバイザー スーパービジョン 社会福祉士 ソーシャルワーク ソーシャルワーカー

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、少子高齢化などの社会の変化にともない福祉課題が多様化・高度化し、そのような課題に対応する社会福祉士の役割が拡大し、活躍が期待されるようになってきた。しかし、社会福祉施設等での社会福祉士の任用・活用の状況は低調で、専門的な対応ができる人材の確保・資質の向上を図ることが求められるようになった。そのため、2007年に「社会福祉士法及び介護福祉士法」が改正され、さらに社会福祉士のキャリアアップを支援し、実践力を担保する仕組みである認定社会福祉士制度が創設された。そのなかで実践力育成のため不可欠なものとして位置づけられているのがスーパービジョンである。

福祉現場におけるスーパービジョンは、組織の方針にそって質量ともに最良のサービスを利用者に提供することを目指して、スーパーバイザーがスーパーバイザーの職務遂行に関わることで、その機能には、管理的機能、教育的機能、支持的機能がある(Kadushin & Harkness, 2014)。欧米では業務の一環として位置づけられており、一般的に職場の上司がスーパーバイザーとして部下にスーパービジョンを行うことが多いが、職場外で契約に基づいてスーパービジョンが行われることもある。

わが国の福祉現場では、スーパービジョンは未だ普及していない。日本社会福祉士会(2012)の調査では、定期的にスーパービジョンをうけているのは回答した会員の5.3%だけで、スーパービジョンを受けたことがない理由として最も多いのが「スーパーバイザーがいない、職場に受ける環境がない」である。既にスーパービジョンを行っているスーパーバイザーでも、困難や不安全感、不安を感じ、支援を必要としている(日本社会福祉士会, 2013)。人材育成と福祉サービスの質向上のためには、スーパービジョン体制を確立するとともにスーパーバイザーの養成と支援が喫緊の課題である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、先行研究と専門職の経験知からスーパーバイザーが適切に機能を果たすために必要なことを明らかにし、その知見に基づいてスーパーバイザー養成プログラムを開発することである。

3. 研究の方法

(1) プログラム開発

前半2年間でプログラムを作成し、後半2年間でプログラムの評価を行った。

まず、成人教育理論(Knowles, 2015)や経験学習モデル(Kolb, 2015)、スーパービジョンについての知見(Kadushin & Harkness, 2014; Morrison, 2015; Munson, 2001; Wonnacott, 2014)など先行研究に基づいて、事前研修とスーパービジョン実践から成るプログラムを考案した。そして、そのプログラム原案について専門的な観点から意見を得るために、スーパービジョンについての見識と経験が豊かな研究者を参加者としてプログラムを3回試行した(3回で計22名参加)。その後、プログラム対象者からの意見を得るために、社会福祉士18名を参加者として事前研修を1回試行した。毎回、フォーカス・グループ・インタビューで参加者の意見を聴取し、それに基づいてプログラムの内容と方法を修正・改良していった。その結果、A.スーパーバイザー養成研修、B.模擬スーパービジョン、C.スーパービジョンケースのスーパービジョンの3部構成のプログラムができた。

3年目には、社会福祉士を対象にA.スーパーバイザー養成研修を3回、B.模擬スーパービジョンとC.スーパービジョンケースのスーパービジョンを2回ずつ実施し(参加総数A:79名、B:38名、C:22名)、観察、質問紙、フォーカス・グループ・インタビューでデータを収集して、プログラムのプロセスと結果について評価を行った。その結果に基づいて4年目には、教材を改良し、ABとCの2部構成として、それぞれ2回ずつ実施し(参加総数AB:29名、C:27名)、前年度と同様にデータ収集して評価を行った。

(2) スーパービジョン実態調査

社会福祉士のスーパービジョンの現状を理解し、その状況に応じたプログラムの開発と普及のために、社会福祉士のスーパービジョンの実態を把握するための郵送調査を2つ実施した。一つは認定社会福祉士・認定機関に登録されているスーパーバイザー493名を対象とするスーパーバイザー実態調査である。もう一つは、日本社会福祉士会に登録されている認定社会福祉士484名を対象とするスーパーバイザー実態調査である。スーパービジョンがどの程度行われているか確認するとともに、業務のなかでスーパービジョンの必要性が高いものを明らかにするために、スーパーバイザー対象では業務についての自己効力感、スーパーバイザー対象ではそれらの業務に関してスーパービジョンを行うことについての自己効力感の程度を問うた。

(3) シンポジウム

プログラムの開発だけでなく、その普及も重要であるため、幅広く情報を共有し、今後の取り組みについて検討するためにシンポジウムを開催した。

4. 研究成果

(1) プログラム開発

修正・改良を重ねた結果、プログラムは最終的に次の2部構成となった。

スーパーバイザー養成研修(2日): スーパーバイザーに求められる専門性の獲得・定着をめざす。1日目は講義と演習で体系的な知識・技能の学習と確認を行う。2日目は、小グループでの模擬スーパービジョンでスーパーバイザー役、スーパーバイジー役、観察役を体験し、ワークシートの記入と体験の振り返りを通して実践的にスーパービジョンを学ぶ。

スーパービジョンケースのスーパービジョン(1日): 既にスーパーバイザーとしてスーパービジョンを行っている人を対象とし、その実施したケースについて事前レポートを提出したうえで、小グループのなかでスーパービジョンを受ける。グループの他の参加者がスーパービジョンを受けている時は、その様子を観察し、ワークシートの記入とグループでの振り返りを通して理解を深める。

両方とも2回ずつ実施した結果、毎回9割以上の参加者が5段階評価で最高評価「5.良かった」を選択しており、参加者の満足度は高かった。参加者とスーパーバイザーそれぞれのフォーカス・グループ・インタビューやワークシートなどからは、スーパービジョンの意義や意味、方法、技術などについての学びや自分自身についての様々な気づきが得られたことが明らかになっており、スーパービジョンの遂行に役立つ学習ができたことが示されていた。一方、プログラム実施ごとのサンプル数が少なかったため、信頼性・妥当性のある尺度の開発まで至らず、統計学的に有意な効果を示すことはできなかった。また、今回はプログラムの長期的な影響については確認できていない。

以上により、質的データからはスーパーバイザー養成プログラムは有益と考えられるが、その効果については引き続き検証が必要であり、その結果に応じてプログラムも改良していくことが望まれる。

(2) スーパービジョン実態調査

スーパーバイザー実態調査では、回答者218名(回収率44.2%)のうち、認定社会福祉士制度が創設され初めて認定社会福祉士が生まれてから本調査実施までの4年間でスーパービジョンを実施したことがあるのは116名(53.2%)だった。スーパーバイザー実態調査では、回答者220名(回収率45.7%)のうち212名(96.4%)がスーパービジョンの必要性を認めながら、138名(62.7%)が認定社会福祉士制度で求められるスーパービジョンを受けたことがなかった。スーパービジョンを過去1年間に受けたことがない理由として最も多いのが「スーパーバイザーがいない」、次に「スーパービジョンを受ける時間がない」「スーパービジョンを受ける手順・手続きがわからない」であった。スーパーバイザーとスーパーバイジーの両調査において、個別レベルの業務についての自己効力感が高かったが、地域レベルの業務についての自己効力感は低いことも明らかになった。

二つの調査からは、スーパービジョンの実施状況が低調のままであることが明らかになった。スーパーバイザー登録者の半数しか実際にスーパービジョンを行っていない一方で、スーパーバイザーがいない・時間がないという声が多いことから、今後、スーパーバイザーとスーパーバイジーのマッチングやICTの利用、スーパービジョンを受ける動機付け、スーパービジョン実施についての情報提供や環境整備などについて検討し、対応することが必要である。また、スーパーバイザー養成プログラムのなかでは、地域レベルの業務に関わる内容を強化する必要も明らかになった。

(3) シンポジウム

シンポジウムでは、スーパービジョンの先駆者で現在も指導的な立場にある4名のシンポジストから、スーパービジョンの現状と今後の方向性についての報告があり、約100名の参加者との間で活発な質疑応答が行われた。このシンポジウムでは、スーパービジョンに通底するものとともに多様な考え方や方法などが明らかになり、これからの取り組みの方向性として、分野・領域を超えて基盤となるものうえに多様なあり方や方法を集積し、豊かなスーパービジョンの文化を醸成していくことの必要性が示唆された。

引用文献

- Kadushin, A. & Harkness, D. (2014). *Supervision in social work* (5th ed.). Columbia University Press.
- Barak, M.E.M., Travis, D.J., & Pyun, H. (2009). The impact of supervision on worker outcomes: A meta-analysis. *Social Service Review*, 83(1), 3-32.
- 日本社会福祉士会社会福祉推進事業スーパービジョン委員会(2012)『社会福祉士の専門的な実践力の向上と活動領域の拡充に関する調査研究事業報告書』, 社団法人日本社会福祉士会
- 日本社会福祉士会スーパービジョン体制確立に関する調査研究委員会(2013)『社会福祉士のスーパービジョン体制の確立等に関する調査研究事業』, 社団法人日本社会福祉士会
- Knowles, M.S., Holton, E.F. and Swanson, R.A. (2015). *The adult learner: The definitive classic in adult education and human resource development* (8th ed.). Routledge.
- Kolb, D.A. (2015) *Experiential learning: Experience as the source of learning and*

development (2nd, ed.). Pearson.

Morrison, T. (2005) Staff supervision in social care: Making a real difference for staff and service users (3rd ed.) Pavilion.

Munson, C.E.(2012). Handbook of social work supervision (3th ed.). Routledge.

Bandura, A. (1985). Social foundations of thought and action: A Social cognitive theory. Prentice Hall.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計3件)

野村豊子, ソーシャルワーク・スーパービジョンとは何か, 保健の科学, 査読無, 59巻12号, 2017, 798 - 803

岡田まり, 社会福祉士のスーパーバイザー養成プログラムの開発の評価, 保健の科学, 査読無, 59巻12号, 2017, 812 - 816

岡田まり, 福祉現場から 社会福祉士のスーパービジョン, 地域ケアリング, 査読無, 18巻5号, 2016, 80 - 82

〔学会発表〕(計13件)

片岡靖子, 岡田まり, 野村豊子, 潮谷恵美, 潮谷有二, 認定社会福祉士制度下におけるスーパーバイザーの実態 「スーパーバイザー実態調査」からの報告, 日本社会福祉学会第66回秋季大会, 2018年

岡田まり, 片岡靖子, 野村豊子, 潮谷恵美, 潮谷有二, 認定社会福祉士制度におけるスーパーバイザーの実態 スーパーバイザー実態調査の結果, 日本社会福祉学会第66回秋季大会, 2018年

潮谷恵美, 岡田まり, 片岡靖子, 野村豊子, スーパーバイザー養成研修に期待される内容と課題 モデル研修受講者のインタビュー分析から, 日本ソーシャルワーク学会第35回大会, 2018年

岡田まり, 片岡靖子, 野村豊子, 潮谷恵美, スーパービジョン場面へのスーパービジョン試行プログラムの評価から, 日本ソーシャルワーク学会第35回大会, 2018年

片岡靖子, 岡田まり, 野村豊子, 潮谷恵美, スーパービジョンの概念分析 スーパーバイザーおよびスーパーバイザー経験からのインタビュー分析から, 日本ソーシャルワーク学会第35回大会, 2018年

岡田まり, 潮谷恵美, 片岡靖子, 野村豊子, 認定社会福祉士制度におけるスーパーバイザー養成プログラムの展開: スーパーバイザー養成の課題と今後の方向性, 第26回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会, 2018年

片岡靖子, 野村豊子, 岡田まり, 潮谷有二, 潮谷恵美, スーパーバイザー養成研修プログラムの評価と課題 スーパーバイザーのニーズ把握を通して, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 2017年

岡田まり, 野村豊子, 片岡靖子, 潮谷有二, 潮谷恵美, スーパーバイザー養成プログラムの開発と評価(中間報告) 福祉現場でのスーパービジョン普及をめざして, 日本社会福祉学会第65回秋季大会, 2017年

岡田まり, 野村豊子, 片岡靖子, 集合方式による個人スーパービジョン 社会福祉士のスーパーバイザー養成プログラムの開発と評価に向けて, 日本ソーシャルワーク学会第34回大会, 2017年

片岡靖子, 岡田まり, 野村豊子, 集合方式によるスーパービジョンプログラムの評価と課題~スーパーバイザーへのフォーカス・グループ・インタビューからの分析~, 日本ソーシャルワーク学会第34回大会, 2017年

野村豊子, 片岡靖子, 潮谷有二, 潮谷恵美, 岡田まり, グループスーパービジョンの現状と課題 認定社会福祉士制度におけるシステム構築, 日本社会福祉学会第64回秋季大会, 2016年

岡田まり, 野村豊子, 片岡靖子, 岡本民夫, ソーシャルワークにおけるスーパービジョンの有用性 社会福祉士のスーパーバイザー養成プログラムの開発と評価に向けて, 日本ソーシャルワーク学会第33回大会, 2016年

岡田まり, 野村豊子, 片岡靖子, 潮谷恵美, 社会福祉士の専門性・倫理性向上をめざして, 第24回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会, 2016年

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:

発明者:

権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：野村 豊子
ローマ字氏名：NOMURA TOYOKO
所属研究機関名：日本福祉大学
部局名：社会福祉学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：70305275

研究分担者氏名：片岡 靖子
ローマ字氏名：KATAOKA YASUKO
所属研究機関名：久留米大学
部局名：文学部
職名：准教授
研究者番号（8桁）：30389580

研究分担者氏名：潮谷 恵美
ローマ字氏名：SHIOTANI EMI
所属研究機関名：十文字学園女子大学
部局名：人間生活学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：70287910

研究分担者氏名：潮谷 有二
ローマ字氏名：SHIOTANI YUJI
所属研究機関名：長崎純心大学
部局名：人文学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：90285651

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：
ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。